

英国マリンパワーシステムズ、日本市場拡大に着手



マリンパワーシステムズは、日本での事業展開をさらに進めるため、冨田利哉氏を日本カン トリーディレクターに任命しました。冨田氏は、東京を拠点に、今後日本で大きな発展が期待される浮体式洋上風力発電の事業機会発掘と、事業パートナーシップやシナジーのさらなる開発を進めます。

洋上風力発電は、2050年までに日本の主要な再生可能エネルギー源となり、浮体式風力発電は日本のエネルギーミックスに大きく貢献することが期待されています。沿岸地域の固定式風力タービンに適した海域が限られていることや、施設が過密となることから、浮体式洋上風力発電は日本で大きな関心を集めています。日本では、2011年の早い段階から浮体式洋上風力発電の導入実績があり、日本政府は2030年までに10GWの洋上風力発電容量を供給する目標を掲げています。

MPSは、商業規模での浮体式洋上風力プラットフォームを提供するため、日揮とすでにパートナーシップを確立しています。この提携により、MPSの浮体式風力プラットフォーム技術であるPelaFlexと日揮日本のEPCIサービスを組み合わせ、日本で浮体式洋上風力

発電プロジェクトを共同で提供します。

MPS は、商業規模向けに、PelaFlex と呼ばれる洋上風力プラットフォーム・ソリューションを開発しています。TLP プラットフォームの設計は、高度なシステム安定性、最小限の海底設置面積、ゼロ傾斜を実現し、タービンの磨耗を軽減し、エネルギー収量を最大化します。また、風力タービン技術に依存しません。このため、深い海域での迅速な商業規模の導入を検討している日本の洋上風力発電開発者にとって、この製品は優れた選択肢となります。

MPS のテクノロジーのモジュール式と構造的に効率的な四面体設計により、浮体式プラットフォームには主要な鋼製コンポーネントが 10 個しかなく、個別の部品が 4 つしかありません。PelaFlex は、既存のサプライ・チェーンで迅速に製造および組み立てられるように設計されています。プラットフォームの質量が小さいため、耐荷重能力や保管の必要性などの岸壁の要件が軽減され、また喫水が浅くて済むシステムにより、費用のかかる浚渫の必要がなくなりました。複数の進水オプションは、より迅速な商業規模の展開と特定の港湾要件を排した分散型港湾モデルをサポートします。

MPS のコマーシャルディレクター、マーティン・カールス氏は次のように述べています。

「日本は重要な浮体式洋上風力発電市場であり、その導入目標を急速に進めています。MPS のモジュール式プレハブ・ソリューションは、工業化とコスト削減の鍵となります。日揮の現地における知識と産業エネルギープロジェクトの実行能力と組み合わせることで、非常に信頼性の高い浮体式洋上風力発電ソリューションを日本市場に提供できます。MPS は、日本が浮体式風力発電の野望を達成できるよう協力に支援します。」

MPS の日本カントリーディレクターの富田利哉氏は次のようにコメントしています。「日本の洋上風力発電市場にとって非常に重要な時期に MPS に参加できることを嬉しく思います。日本の再生可能エネルギー需要は、今後 10 年間で大幅に増加すると予測されています。着床式基礎に適した海底は限られているため、浮体式洋上風力発電は、日本が将来のエネルギー需要を満たす上で重要な役割を果たすでしょう。PelaFlex のモジュール式で量産可能な設計は、日本の既存の産業能力の強みを発揮することに貢献します。」